

2019年3月1日

「第35回高峰カンファレンス」を開催しました。

第35回高峰カンファレンスは、平成31年3月1日(金)如水会館にて開催されました。多くの大学ならびに研究機関の研究者など80名の参加者が集まりました。

当財団では毎年、生命科学研究の発展に寄与した研究者に対して、高峰記念第一三共賞を贈呈しています。

高峰カンファレンスは受賞者の業績を記念して開催され、学术交流の場を提供することで研究のさらなる振興と若手研究者の育成を図ることを目的としています。

今回は「記憶研究の最前線」という総合テーマのもと、記念講演とシンポジウムが行われました。



開催の辞を述べる眞鍋理事長

記念講演では、京都大学 名誉教授 中西 重忠先生の座長の元、今年で16回目となった高峰記念第一三共賞を受賞された富山大学大学院 医学薬学研究部 医学部生化学講座教授 井ノ口 馨先生が登壇され、「記憶の連合とアイデンティティの物理化学的実体」というテーマで基調講演をいただきました。

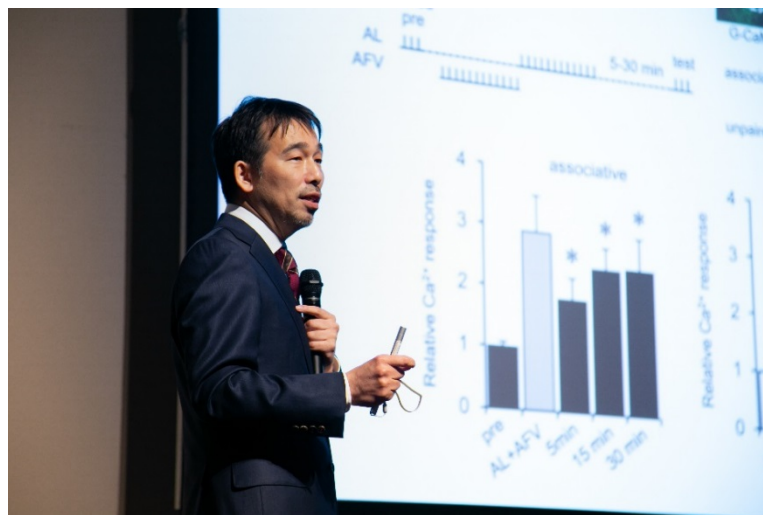


記念講演座長を務められた京都大学名誉教授 中西 重忠先生



第16回高峰記念第一三共賞を受賞された
富山大学大学院 医学薬学研究部 医学部生化学講座 教授 井ノ口 馨先生

引き続き行われたシンポジウムでは、井ノ口 馨先生の座長の元、東京都医学総合研究所 学習記憶プロジェクト プロジェクトリーダー 齊藤 実先生、理化学研究所 脳神経科学研究センター 神経情報・脳計算研究チーム チームリーダー 深井 朋樹先生、理化学研究所 脳神経科学研究センター 触知覚生理学研究チーム チームリーダー 村山 正宜先生にご講演をいただきました。



「連合強化シグナルとしての新規ドーパミン放出機構」について講演された齊藤先生



「シナプス可塑性の多様性と経験の学習：事実から理論へ」について講演された深井先生



「触知覚とその記憶の固定化メカニズム」について講演された村山先生



会場の様子

※ 高峰カンファレンスのプログラムは[こちらから](#)ご覧頂けます。